

■土砂崩れにより寸断された林道（北川地区）



■土石流により流された看板（成川地区）



■土砂に埋まった家屋（生田地区）



自分たちの命は自分たちで「守る」

自主防災組織

災害が発生した場合に、土砂崩れや倒

木による通行止めにより、防災機関が早急に対応できないことも考えられます。被害の拡大を防ぐには、自分や家族の力だけでは限界があり、危険を伴う場合があります。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、同時多発的に災害が発生したため、公的機関の活動がうまく機能せず、多くの犠牲者がでました。一方で地域住民の救助活動や初期消火活動により、多くの命が救われました。このように、隣近所の人たちが集まり、お互いに協力しながら初動時の被害防止活動や住民避難に組織的に取り組むことが大きな力となります。

災害発生時はまず命を守る

ことが大切です。災害等の非常時に自分や周りの人々の命を守ると同時に被害が最小限となるように取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

自主防災組織は、地理的条件、生活環境などからみて、地域として一体性を有する大きさが最も効果的に活動できる規模とされています。鬼北町にも17の自主防災組織が設立されていますが、既存の区・組の組織をそのまま自主防災組織に兼ねさせる形が多くとられています。

自主防災組織の活動

地域の状況を把握する

自主防災組織では地域の

細かな情報を把握しておく必要があります。情報を把握し、共有することで迅速な避難が可能になります。

- 地域の危険箇所の把握（がけ崩れ・土砂災害危険箇所の確認）
- 家族構成の把握（人数、独居老人など）
- 避難経路、避難場所の把握

防災資材の整備・点検

災害時に消火活動や救助活動を行うための防災資材等の確認や整備をするとともに、いつでも使用できるように定期的な点検をします。

- 消火栓・ホースの点検
- 医薬品の整備（消毒薬・包帯など）
- 非常食の整備（缶詰・飲料水など）

防災訓練を実施する

実際に災害が発生した場合に、速やかに行動ができるよう全員で災害時の行動を確認します。役

割分担をしておき、被害の拡大防止活動が迅速にできるようにしておくことが大切です。

- 消火訓練（消火栓・消火器等を利用した初期消火）
- 救出・救護活動（要救助者の救出、応急手当）
- 食料等の確保（水・食料の配分、炊き出し）
- 避難訓練

町内の自主防災組織結成状況 (H19.5月現在)

| | |
|------------|-------|
| 世帯数 | 5,147 |
| 自主防災組織数 | 17 |
| 組織されている世帯数 | 1,532 |
| 組織率 | 29.8 |

問い合わせ先

役場総務課地域安全係
☎45・1111（内線235）